



おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師、経営学修士(MBA)、新潟郷土史研究会会員
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろ えちご塾」（恒文社）
「郷土とことわざ」「ことわざを楽しく学ぼう、社会・文化・人生」（人間の科学新社・共著）等

「かげのぞき」

「かげのぞき」ということばをご存知ですか？

会話「あのしょ、どういんだ、ちっともかげのぞき
もしないで」

「ほんねさ、なじらろ、それにしてもかげのぞ
きくらいすればいいねかね」

訳「あの人、どうしたのかしら、少しも顔をお見
せにならないで」

「ほんとね、お元気かしら、それにしてもお顔
みせてもいいのね」

というように「顔を見せる」「（儀礼的にせよ）訪
問して挨拶にくる」といった意味合いで使用するこ
とばです。

かげのぞきという語は、かづ（つ）ける（他人のせ
いにする）、がすもくた（がらくた）、がとにする
（強く無理に何かを行う）、がきん（に）なる（必死
に何かを行う）、ごうやける（非常に腹立たしい）
等々その語感、発音、リズムから、なんとなく感覚的
に「カ行新潟弁」の仲間のような気がして、「味わい
深い新潟のことば！」だと信じておりました。

戸の隙間から顔をちらっと出して、様子を覗って
いるような様子、この状態を端的に表した言い回し、
しかも、しょうしがり（恥ずかしがり）な県民気質を
よく表したことばである、とも思っておりました。

とはいえ、日ごろばたばたしているくせに、のめし
こきなわたくしは、「かげのぞき」するのも、される
のも好まずにきたため、正直言って口にする機会が
なかったせいか、格段気にすることなく過ごしてき
ました。

それが、あるとき、ある会で、ある人たちと方言に
ついてああでもない、こうでもない論じていたとき

のこと。「共通語だと思っていたら方言だったこと
ば」（例、新潟弁でたいよう紙⇒共通語で模造紙、
先生にかけられる⇒共通語で先生に指名される
等々）も多々あるけれど、「方言だと思っていたら共
通語だったことば」もしかもある、という話題にな
り、この「かげのぞき」が新潟のことばどころか、江
戸弁でもある！ということが判明したのです。

では、なぜ、遠く離れた江戸と越後で使われてき
たか？思うに、共通語だと思っていた「鼻を曲げる」
（すねること）が新潟弁であり、ルーツは江戸弁で
あったように、「かげのぞき」も人的交流や地理的条
件等、何らかの理由で新潟に根付いたのかもしれま
せん。

ほかにも、意外や意外、新潟のことばだと思っ
ていたら、あら、江戸方言という語もありそうです。
そこでよせばいいのに、困ったときの知恵袋、言語学
者 東條操先生に伺いました。先生（故人）はもう絶
版になった『全国方言辞典』（昭和26年、東京堂出
版）のなかで、一言明快に答えてくださいました。

「かげのぞきは、対馬弁じゃ」。

ああ、先生の御本で、また面倒なことになりました。
なぜ、江戸ことばが越後と対馬に残ったか？また
もやことばの持つ不思議にとりつかれた次第です。

※当稿に出てくる語と説は
あくまでも筆者の調査で
あり、諸説あります。

